

平成30年度

三原中学校『学び』プラン

～ より良い授業を目指して ～

目次

◎ 学力向上を図るための全体計画・・・・・・・・・・	1ページ
◎ 三原中「学びフェスト」・・・・・・・・・・	2ページ
◎ 授業改善推進プランについて・・・・・・・・・・	3ページ
◎ 評価と評定について・・・・・・・・・・	4ページ
◎ 各教科の評定について	
○国語・・・・・・・・・・	5ページ
○数学・・・・・・・・・・	6ページ
○英語・・・・・・・・・・	7ページ
○社会・・・・・・・・・・	8ページ
○理科・・・・・・・・・・	9ページ
○音楽・・・・・・・・・・	10ページ
○美術・・・・・・・・・・	11ページ
○保健体育・・・・・・・・・・	12ページ
○技術・家庭・・・・・・・・・・	13ページ

平成30年度〈学力向上を図るための全体計画〉

【東京都教育委員会の教育目標】

東京都教育委員会は、子どもたちが、知性、感性、道徳心や体力をはぐくみ、人間性豊かに成長することを願い、

- 互いの人格を尊重し、思いやりと規範意識のある人間
- 社会の一員として、社会に貢献しようとする人間
- 自ら学び考え行動する、個性と想像力豊かな人間

の育成に向けた教育を重視する。

また、学校教育及び社会教育を充実し、だれもが生涯を通じ、あらゆる場で学び、支え合うことができる社会の実現を図る。

そして、教育は、家庭、学校及び地域のそれぞれが責任を果たし、連携して行わなければならないものであるとの認識に立ち、すべての都民が教育に参加することを目指していく。

【各教科】

- ◎各教科等においては東京都の学力調査や全国学力・学習状況調査の結果等を参考に、個に応じた指導の工夫・改善に努め、楽しくわかる授業を行い、確かな学力の定着を図る。
- ◎年2回実施する「生徒による授業評価」を活用し、指導と評価の工夫・改善に取り組むための授業改善推進プランを策定する。
- ◎各教科の指導においては、基礎的・基本的な知識及び技能の定着を図るとともに言語活動を充実させ、思考力・判断力・表現力を育む。
- ◎週ごとの指導計画を通して教育課程の適正な実施を管理するとともに、年間指導計画、評価計画の生徒・保護者への周知を図る。
- ◎個別の教育的ニーズに応えるための学習支援を行い、校内における特別支援教育を推進する。

【道徳】

- ◎体験に基づいた道徳的な価値観について、教師と生徒がともに学び考えながら、よりよく生きる実践的な態度の育成を目指す。
- ◎道徳教育推進教師を中心とし、道徳教育の全体計画及び年間指導計画に基づき毎週道徳の時間を確保し、継続的な学習を行う。
- ◎小学校と合同で「道徳授業地区公開講座」を開催し、小学校、保護者・地域と連携した道徳教育や心の教育を推進する。

それぞれの取り組みを支える学校組織の役割

【進路指導】

- ◎学級活動や教育相談において、計画的・系統的な指導・助言を行うことにより、自己の生き方を探求させ、自己実現を図れるようにする。
- ◎地域の人材、外部講師の活用も図りながら、生徒の発達段階に応じた進路学習を実施する。
- ◎奉仕活動や職場体験を実施し、望ましい勤労観・職業観を育てるとともに、将来に対して必要な意欲や態度、能力を育てる。

【本校の教育目標】

人間尊重の精神を基調とし、豊かな社会の形成に貢献できる人間を育成する。

- やさしい人 ●たくましい人 ●よく学ぶ人

【学校長の学校経営方針】

＜学校経営の基本方針＞

- ・生徒一人一人の夢や目標の裾野を広げるために、生徒の特性を理解し、能力を十分に発揮するための教育環境の整備や、指導の工夫改善に積極的に取り組む。
 - ・学習の「基礎・基本」が身に付けるとともに、前向きに授業に向き合う姿勢を育てるためにICT教育の環境整備を行い、授業に積極的に取り入れる。
 - ・地域に根ざした学校を創るために、家庭・地域社会との連携を密にする。
 - ・学校が一致団結して教育課題に取り組める教職員組織を構築する。そのためには、教職員一人一人の個性を十分に発揮するとともに、自らの専門性の向上に努める。
 - ・充実した小中一貫教育を推進するために、各行事、学校生活、教科・領域等で明確な目標を策定し、小学校と協力しながらカリキュラムの実践に取り組む。
- ＜目指す学校像＞
- ・生徒にとって
安全で楽しく、夢を育める学校
 - ・保護者にとって
子供を安心して登校させることのできる学校
 - ・地域にとって
協同の精神を基調とし、共に歩むことのできる学校

《教育活動の全体の柱》

生徒一人一人を よくめんどろみ
かわいがり あゆませる

【八丈町教育委員会の教育目標】

八丈町教育委員会は、本島のもつ特性を生かし、子どもたちが、知性、感性、道徳心や体力をはぐくみ、人間性豊かに成長することを願い、互いの人格を尊重し、思いやりのある人、社会の一員として、社会に貢献しようとする人、自ら学び考え行動する、個性と想像力豊かな人の育成に向けた教育活動を行う。

また、学校教育及び社会教育を充実し、生涯を通じ、あらゆる場で学び、支え合うことのできる社会の実現を図る。

そして、家庭、学校及び地域のそれぞれが責任を果たし、連携して、すべての町民が教育に参加することを目指していく。

【総合的な学習の時間】

- ◎「共に生きる」をテーマとし、自分を取り巻いている人や地域、社会と積極的に関わることで自己の生き方を深く考えさせ、国際社会の中で生き抜く態度や能力を育成するとともに、郷土に対する理解を深めさせる。
- ◎総合的な学習の時間のねらいに基づいた全体計画の下、評価や指導体制をさらに工夫し、充実した学習を行う。
- ◎学び方を学ぶ学習や体験に基づいた生き方の探求を職場体験や奉仕活動及び地域調査等において重視する。
- ◎地域の文化施設や人材の教育力を有効に活用した教育活動を展開する。
- ◎総合的な学習の時間を中心に情報モラルを身に付け、学校図書やICT機器を活用して、情報収集能力や情報通信ネットワークを適切に活用する資質や能力、態度を育成する。
- ◎意見発表会や学習発表会を通して、主体性・表現力を育む。

【特別活動】

- ◎生徒一人一人に個性や能力を発揮させることにより、成就感や連帯感を味わわせるとともに集団生活の向上を図る意欲や態度を育てる。
- ◎学校行事の運営、環境保護活動等、生徒の主体的な活動を重視し、創造力・表現力・実践力を高める。
- ◎諸活動を充実させることにより、生徒の心身の調和のとれた成長・発達を促す。
- ◎生徒会活動・部活動等の異年齢集団活動を通して、豊かな人間関係を育む。

【生活指導】

- ◎生徒との信頼関係を大切にしながら、基本的な生活習慣の確立を目指し、進んで規律を守る生徒を育てる。
- ◎全教職員による指導体制を確立し、全教育活動を通して自尊心や自己肯定感を高める指導を行い、生徒の自己実現を図る。
- ◎「学校いじめ防止基本方針」を策定し、「学校いじめ対策委員会」を中心に、いじめの防止、早期発見と対応に取り組むとともに、個々の状況に応じて「学校サポートチーム」との連携を図る。
- ◎生徒の観察や生徒用アンケートを活用し、いじめや不登校の予防・早期発見に努め、生徒の健全育成を図るとともに、生命尊重の意識を育てる。
- ◎セーフティ教室や安全指導、小学校と合同で実施する避難訓練の充実を図り、小学校、保護者・地域と連携した生徒の安全確保に関する意識向上や学校としての危機管理体制を向上させる。
- ◎スクールカウンセラーの専門性を活用し、連携を強化しながら、生徒理解の深化を図るとともに、生徒・保護者との教育相談活動を充実させる。
- ◎給食指導や関連する教科等を通して、食に関する指導を推進し、好ましい食習慣の定着を図る。
- ◎全教職員がアレルギー対応に関する理解を深めるとともに「アレルギー対策委員会」を中心として、個々の生徒の状況に応じた適切な対応を行う。
- ◎家庭との連絡を密に行うことにより、指導に関する共通理解にたつた協働関係を強める。
- ◎特別支援コーディネーターを中心とした特別支援教育委員会（校内委員会）において個別指導計画を作成し、共通理解を図りながら指導する。

＜授業改善に向けた視点＞

指導内容・指導方法の工夫	教育課程編成上の工夫	校内における研究・研修の工夫	評価の工夫	家庭や地域との連携の工夫
◎少人数学級を生かして一人一人にきめ細かな指導を行う。 ◎一斉指導の中にも個に応じた指導を取り入れ、学力の向上を図る。	◎各教科等の授業時数を確保する。 ◎職場体験、奉仕活動等の体験を重視した教育活動を行う。	◎小中一貫型教育校の開設に向けて、各教科等の9年間を見通したカリキュラムを念頭において教材研究や教材開発、指導方法等の工夫を行う。	◎観点別学習状況の評価をもとに指導と評価の一体化を図る。 ◎公開授業や学校公開期間における外部評価を授業改善に生かす。	◎保護者会、学校だより、学級だよりなどを活用し、家庭への協力を求めるとともに授業に関する質問等へ積極的に答えしていく。 ◎学習内容に応じて地域人材の活用を図り、指導効果を高める。

三原中の『学びフェスト』

※『学びフェスト』とは、政策を有権者に示すマニフェストと同じように教育を受ける生徒やその保護者に対する各教科等からの公約・宣誓です。

教育目標

●やさしい人 ●たくましい人 ●よく学ぶ人

校訓

紳士たれ・淑女たれ

<p>〈道徳〉 生きる力の核となる豊かな心の育成を目指します。 ★そのために・・・ 毎週継続して授業を確保し、生徒の体験に基づいた心情を引き出させます。</p>	<p>〈特別活動〉 生徒の創造力や実践力を高めさせます。 ★そのために・・・ 行事の運営等、生徒の主體的な活動を充実させます。</p>	<p>〈総合的な学習の時間〉 学び方を身に付け、自己の生き方を深く考えさせます。 ★そのために・・・ 調べたり体験したりしたことをわかりやすく表現し発表する活動を充実させます。</p>
<p>〈国語〉 基礎学力の向上のため、語彙力を身に付けさせます。特に、漢字・読解力に力を入れていきます。 ★そのために・・・ 毎回の授業で漢字に取り組む時間を設け、漢字の力を定着させていきます。また、言語活動を充実させるような読みの授業を行います。</p>	<p>〈社会〉 語句を覚えるだけではなく、時代の流れや地域の特性に着目して、考えながら学ぶ習慣を育成します。 ★そのために・・・ 「なぜ」と思う姿勢を大切に、出来事の背景や影響を資料等から読み取る力を身に付けさせる。また、資料を多用した理解の深まる解説を行います。</p>	
<p>〈数学〉 基礎となる計算力を付け、数学的な思考力や判断力を高めさせます。 ★そのために・・・ 授業や家庭学習に反復練習を取り入れ、できるまで丁寧に指導し、達成感を与えて学習意欲を向上させます。また、授業内に学び合い・話し合いの時間を設定します。</p>	<p>〈理科〉 自然事象への興味・関心をもち、意欲を高めるとともに科学的思考を深めさせます。 ★そのために・・・ 実験や観察の充実を図り、実験、観察の成功よりもそれまでの過程やなぜ失敗したのかを思考させる力を養います。グループ学習や実験を通して学び合いや意見交換を行います。</p>	
<p>〈英語〉 基礎的・基本的な学力を定着させ、外国語への興味・関心を高めます。 ★そのために・・・ 繰り返し単語テストを実施し、語彙力を身に付けさせ、ALTと協力して、パフォーマンステストを学期に2回は実施します。そして教科書の音読練習を通して、読解力を育てるような言語活動を充実させます。</p>	<p>〈音楽〉 音楽を愛好する心情を育てるとともに、音楽に対する感性を豊かにし、音楽活動の基礎的な能力を伸ばします。 ★そのために・・・ 生徒が主體的に表現の方法を考えられるように声を掛けていきます。音楽や発表を聴いて意見をもつとともに、感じたことを自分の言葉で表現できるように、言語活動を充実させます。実技テストを行い、単元の目標達成に向けて指導していきます。</p>	
<p>〈美術〉 発想を豊かにし、表現活動を楽しむ態度を高めながら、作品を作り上げる達成感が味わえるようにします。 ★そのために・・・ 基礎的な技能・知識の習得、習作を重ねるなど、スモールステップを踏みながら、自分らしい表現が引き出せるようにします。また、さまざまな作品の鑑賞から、見る力や多様な表現を学びとる力を養っていきます。</p>	<p>〈保健体育〉 体力を向上させ、さらに運動の技術の向上とともに達成感を味わえるようにします。 ★そのために・・・ コーディネーションやトレーニングを行い、また、ペア・グループ学習の中で身についた技術に喜びを感じられるようにしていきます。</p>	
<p>〈技術科〉 生活に必要な知識と技術を習得し、生活と技術との関わりについて理解を深めさせます。 ★そのために・・・ 生活との関わりを意識させながら、授業ごとに到達目標と意義を明確にし、基礎的・基本的な知識と技術を教えます。</p>	<p>〈家庭科〉 自らの生活に生かせる知識と技術の定着を目指します。 ★そのために・・・ 実践的・体験的な活動や実習を効果的に取り入れ、学習の意欲を高めます。</p>	

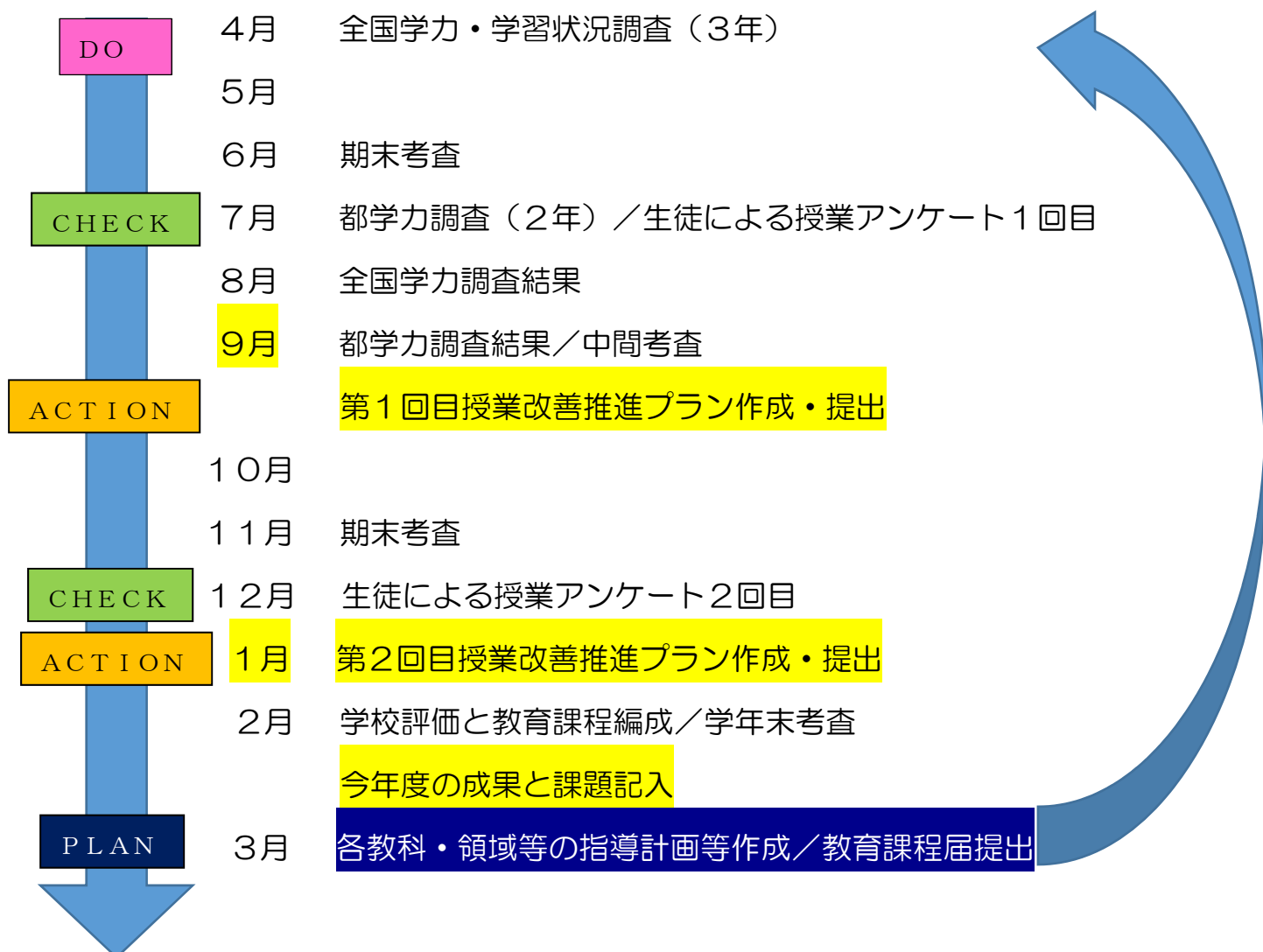
＜教員は次のような学習指導や生活指導に努めます＞

- 個に応じた工夫ある授業を展開します。
 - ・指導後の評価を大切にすることで、生徒に達成感や成就感を与え、次の意欲を引き出します。
 - ・授業の流れや目標を明確に示し、生徒の主體的な学びを促します。
- 一人一人をよく理解し、問題や変化に素早く対応します。
 - ・生徒一人一人の気持ちを大切にしながら、言葉に耳を傾けます。
 - ・生徒の発言、行動、服装等、課題があると判断したらその場で対応します。

＜保護者の皆様へご協力をお願い＞

- よりよい生活習慣を身に付けさせてください。
 - ・朝食を食べてから登校できるよう、ご協力ください。
 - ・睡眠時間を十分に確保するため、就寝時間や起床時間にご配慮ください。
 - ・清潔な服装で、身だしなみを整えて登校させてください。
- 家庭学習の時間（学年×1時間）を確保できるようご配慮ください。
- お子様の学校生活、日常生活のことでご心配な点、ご質問等がありましたらいつでもご相談ください。

授業改善スケジュール（PDCA サイクル）について



<昨年度からの変更点>

○昨年度まで1学期に授業改善推進プランとして作成していたものは、書式を変えて、9月を第1回目の提出とします。

- ・1学期の授業の様子や、7月の生徒授業アンケートの実施結果から、生徒の実態と課題、指導の手立てを入れて、授業改善推進プランを作成します。
- ・これまでの授業改善推進プランに付けていた「評価・評定」の項目は別に作成して、1学期末の保護者会で提示します。

※授業改善プランの書式については、1学期中に別途提案します。

○1月に第2回目の授業改善プランを提出します。2回目の生徒授業アンケートや2学期の生徒の変容を踏まえて、2学期までの成果と課題、指導の手立てを入れて作成します。

○2月末までに、1年間の成果と課題を入れて、授業改善推進プランを完成させます。それを受けて、3月に次年度の指導計画等を作成します。

評価と評定について

評価規準を明確にした授業

- ・「評価規準」とは、各単元の目標や1単位時間の指導のねらいを明確にした上で、期待される生徒の姿を示したものです。
- ・「評価規準」は学習指導要領の各教科の目標や内容等の記述をもとに各学校ごとに各教科の評価の観点、趣旨等を踏まえて作成しているものです。

評価の観点と評価について

- ・評価の観点は・・・「関心・意欲・態度」「思考・判断・表現」「技能」「知識・理解」の4つの観点があります。また、国語については学習指導要領の内容の示しかたから「国語への関心・意欲・態度」「話す・聞く能力」「書く能力」「読む能力」「言語についての知識・理解・技能」の5つの観点があります。
- ・評価規準の達成度について、A「十分満足できる状況」かB「おおむね満足できる状況」かC「努力を要する状況」で評価します。
- ・ノートやレポート、ワークシート、作品等、授業後に教師が確認しながら評価を行えるような方法と、授業中の見取りを適切に組み合わせて、全員の学習状況を見取るなど、評価方法の工夫を行っています。

評定について

- ・各教科ごとに観点別学習状況の達成度を評価したものを総括して5段階で示したものを評定と呼びます。
『5』・・・十分満足できると判断されるもののうち、特に高い程度のもの
『4』・・・十分満足できると判断されるもの
『3』・・・おおむね満足できると判断されるもの
『2』・・・努力を要すると判断されるもの
『1』・・・一層努力を要すると判断されるもの
- ・観点別学習状況A～Cにはそれぞれ評価の幅があるため、4つの観点がすべてAでも評定が『5』とは限りません。また、すべてがCでも『1』とは限りません。

国語科評価・評定について

1. 評価規準

	関心・意欲	話す・聞く	書く	読む	知識・理解
(例) 深まる学びへ (第3学年)	●作品を読み、自分の考えを深めようとしている。 ●自分の意見を明確にして批評文を書こうとしている。	●相手の求める情報を的確に捉え、相手の反応や表情を見ながら、自分の経験や知識を整理して答えている。	●分析のための観点を示し、判断や批評の根拠を明確にした構成で批評文を書いている。	●作品の表現から工夫や筆者の思いを捉え、自分の意見を書いている。	●言葉や表現に着目して読んでいる。 ●漢字を正しく理解している。

2. 評価方法

①下記の資料を総合して評価します

- ・定期考査
- ・聞き取りテスト
- ・暗唱テスト
- ・授業中の様子
- ・提出物（私の本）等

②観点別評価と各評価との関係

- ・観点別評価で、各資料がどの位のウェイトを占めるかを示しています。

◎・・・とても重視する ○・・・重視する

観点 学習 活動	関心・意欲	話す・聞く	書く	読む	知識理解
定期考査	◎		◎	◎	◎
暗唱テスト	○	○			
聞き取りテスト		◎			
授業中の様子	◎	◎	○	○	
提出物	○		◎	○	○

昨年度の成果と課題

1年	2年	3年
<p>成果基礎・基本の定着とともに、協働的な取り組みを行うことで表現する力が身に付いた。</p> <p>課題文章や問題等じっくりと読み深め、まずは自分で考える習慣を身に付けさせたい。</p>	<p>成果語彙を増やすことを目標に取り組み、以前より習得している語彙の数が増えた。</p> <p>課題言葉に着目するために、授業進捗が遅れがちになった。年間指導計画を意識する必要がある。</p>	<p>成果話し合い活動を通して、自分の考えを表現する力が身に付いてきた。</p> <p>課題課題設定などを工夫することで、基礎学力の定着と応用力との両立を図る必要がある。</p>

数学科 評価・評定について

1. 評価規準

・この評価規準を達成していれば、観点別学習状況で「B」評価です。(例)

	関心・意欲・態度	見方や考え方	技 能	知識・理解
1章 正負の 数	<ul style="list-style-type: none"> 身のまわりのいろいろな事象を正負の数を用いてとらえようとする。 反対の性質を表す数として正負の数が使われることに興味をもち、活用しようとする。 加法と減法を統一的に表すことができることに興味をもち、活用しようとする。 正負の数の四則演算について工夫して計算しようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 正負の数を用いて表すことを通して、事象や性質について、より広く考察する。 0のもつ意味の理解を深め、数を負の数まで拡張することができる。 加法、減法の原理を数直線を用いて考えることができる。 加減、乗除をそれぞれ統一的に見ることができる。 正負の数の四則演算で能率的な方法を見いだすことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 正負の数を用いて、身のまわりのいろいろな事象を表すことができる。 正負の数を用いて反対の方向や性質を表すことができる。 数を数直線上に表すことができる。 正負の数の大小を不等号を用いて表すことができる。 それぞれの数の範囲でいつでもできる計算をいうことができる。 正負の数の四則について計算ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 正負の数に関する用語の意味を理解している。 正負の数の大小関係や絶対値の意味を理解している。 正負の数の加減や乗除の計算の意味とその方法を理解している。 加法、乗法における交換法則や結合法則を理解している。 分数を考えることで、除法がいつでもできるようになったことを理解している。

2. 評価方法

① 下記の資料を総合して評価

- ・定期テスト
- ・小テスト
- ・提出物（問題集・レポートなど）
- ・授業（ノート・宿題・発言など）

② 観点別評価と各評価との関係

・観点別評価で、各資料がどの位のウェイトを占めるかを示しています。

観点	学習活動				
		関・意・態	見方や考え方	技 能	知識・理解
定期テスト	50		10	20	20
小テスト	10		5	5	
提出物	20	15	5		
授業	20	10	5		5
合 計	100	25	25	25	25
各観点の比率		25%	25%	25%	25%

昨年度の成果と課題

1年	2年	3年
<p>学習内容の定着については、小学校段階まで立ち戻り確認することができた。問題文の把握に課題がある生徒がいるため、全体に発問をして問題文を把握してから問題に取り組むよう指導する。</p>	<p>ノートや小テストで途中式を丁寧に書くことができるようになった。証明等、文章での記述力に課題がある生徒がいるため、授業後にノートをチェックするなど個別に指導を行う。</p>	<p>ペア学習やグループ活動を取り入れ、教え合い・学び合いをすることができ、全体の理解度が高まった。意欲や達成度の個人差への対応が課題であるため、個に合わせた指導の工夫をしていく。</p>

英語科 評価・評定について

1. 評価規準

・観点別学習状況の「B」に相当するのが、評価規準です。

単元	①関心・意欲態度	②表現の能力	③理解の能力	④言語・文化の知識
読むことの評価例				
(例) Unit 1 Pop Culture Then and Now (3年)	(言語活動への取組) *Read and ThinkのTorF やQ&Aのリーディング ポイントの答えを見つけ ようとして英文を黙読し ている。 (コミュニケーションの 継続) *途中で意味がよくわか らない表現があっても、 ノートの意味調べを用い たり、類推力を働かせた りして読み続けている。	(正確な音読) *教科書本文を聞き手が理 解できるように正しい発音 ，イントネーションで音読 することができる。 *英作文をする際に、正し い語順や文法を使って英文 を作り、発表することがで きる。	(正確な読み取り) *教科書本文の英文の内 容について正しく読み取 ることができる。 (TorF やQ&A) *英文内容について大切 な部分を理解することが できる。	(言語についての知識) *受け身の形・意味・用 法に関する知識を身に付 けている。 *「make+ (代) 名詞 +形容詞」の形・意味・ 用法に関する知識を身に 付けている。 *日本文化の海外への広 まりについての知識を身 に付けている。

2. 評価方法

① 下記の資料を総合して評価します。

・定期テスト、リスニングテスト、音読テスト、単語テスト、文法テスト、読解テスト、スピーチ、暗唱テスト、ペアーワーク活動、授業点、インタビュー等

② 観点別評価と各評価との関係

◎・・・とても重視する ○・・・重視する

学習活動	観点	観点①	観点②	観点③	観点④
定期テスト			◎	◎	◎
提出物の状況		○			
ペアーワーク活動		○	○		
授業点 (積極性・態度)		○			
音読テスト			○		
スピーチ			○		
リスニングテスト				○	
読解テスト				○	○
単語テスト					○
各種文法テスト					○
ALTとの面接		○	○	○	○
各観点の比率		25%	25%	25%	25%

昨年度の成果と課題

1年	2年	3年
<p>【成果】音読練習を十分に行った後、小テストを実施したことにより、発音とスペルを一致させて暗記することができた。また、スピーチやALTとのインタビューテストを通して、発音やイントネーションが向上した。</p> <p>【課題】新しく習った文法や語彙を定着させ、書いたり話したりする表現へとつなげていくことが課題である。</p>	<p>【成果】音読練習で繰り返し語彙の発音とつづりを確認したことで小テストで満点をとる生徒が増えた。また、新しい文法を習った後にすぐにワークを課題にしたことで、丁寧に学習に取り組むようになった。</p> <p>【課題】発音やイントネーションを意識し、強弱を付けて英文を読む力や文構造を意識して英文を書く力を身に付けさせることが課題である。</p>	<p>【成果】毎時間80～120語程度の英文を読むことによって、読むスピードが上がった。また、様々な形式の問題を解くことによって考え方や解き方が身に付いた。</p> <p>【課題】英作文において「書きたいことを書く」のではなく、「書けることを書く」という表現の方法が課題である。語彙習得と文法の定着が課題である。</p>

社会科 評価・評定について

1. 評価基準

	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
(例) 「国の政治のしくみ」 (3年)	<ul style="list-style-type: none"> 国の政治に関心をもち、学習活動に積極的に取り組んでいる。 司法制度改革に関心をもち、課題学習や体験的な学習に意欲的に取り組んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 国の政治にかかわる課題を見だし、広い視野で考察し適切に表現する。 模擬裁判などを通じ、国民の司法参加の意義を考え、自分の考えをまとめ論述し考えを深める。 	<ul style="list-style-type: none"> 国会や内閣の仕事について、様々な資料を収集し、図表などにまとめる。 裁判における課題について、法令や新聞記事などから読み取っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 国会、内閣、裁判所のしくみについて理解し、その知識を身に付けている。 三権分立のしくみと、その意義について理解している。

2. 評価方法

①下記の資料を総合して評価します。

- ・定期考査 ・小テスト ・白地図 ・問題集 ・ノート ・ワークシート ・宿題
- ・長期休業中の課題 ・授業点 など

②観点別評価と各評価との関係

◎とても重視する ○重視する

学習活動 \ 観点	感・意・態	思・判・表	技能	知識・理解
定期考査		◎	◎	◎
小テスト		○	○	○
白地図点検		○	○	
問題集点検	○			
ノート点検	○			
ワークシート	○			
宿題の状況	○			
長期休業中の課題	○	○	○	
授業点	○			
各観点の比率	25%	25%	25%	25%

昨年度の成果と課題

1年	2年	3年
地理・歴史ともに、発問に対して考えながら授業に参加しており、意欲・関心の高まりを感じる。一方で知識の定着に個人差があるので、個々に支援していく。	地理では、映像教材の活用により具体的にイメージしながら学習することができた。また、資料の読み取りは、細かく指導を行ったことで概ね読み取ることができているが、表現する部分に課題が残る。	時事問題や実生活の場面にもふれることで、用語の意味を具体的に理解する学習がすすめられた。一方で、各個人の知識の定着には、授業外の取組も含め課題が残る。

理科評価・評定について

1. 評価規準

・観点別学習状況の「B」に相当するのが、評価規準です。(例)

項目	関心・意欲・態度	科学的思考表現	実験観察の技能	知識・理解
身近な生物の観察	校庭の植物を進んで探究しようとする。	植物の種類が環境要因と関わっていることを見いだせる。	ルーペなどを用いて適切なスケッチなどの記録ができる。	植物は環境と深くかかわっていることを理解している。
植物のからだのつくりとはたらき	植物が子孫を残すしくみに関心をもち探究しようとする。	花のつくりの配列の規則性を見だし表現できる。	ルーペなどを用いて適切なスケッチなどの記録ができる。	花の基本的なつくりと名称を理解し知識を身に付けている。
	マツの花のつくりを意欲的に調べようとする。	植物を有効な基準を設定して比較検討することができる。	種子植物のからだの特徴を整理してまとめることができる。	被子植物と裸子植物の特徴を理解し知識を身に付けている。
植物のなかま	植物の特徴を資料に基づいて比べようとする。	調べたい植物の特徴を図鑑やパソコンで調べられる。	種子植物のからだの特徴を整理してまとめることができる。	植物を分類することができシダ植物コケ植物の知識がある。

2. 評価方法

①下記の資料を総合的に活用する。

・定期考査

・ノート・ノートプリント ・授業中の発言、態度 ・自己評価

②観点別評価と各観点の学習状況

・観点別評価で、各観点の学習状況を把握しています。

平成31年度
評価基準変更有

学習活動	観点	関心・意欲・態度	科学的思考表現	実験観察の技能	知識・理解
	定期考査		10	60	50
小テスト			20	20	20
実験レポート、ノートプリント		50	10	30	
発言・発表・態度		20	10		
提出物状況		20			

昨年度の成果と課題

1年	2年	3年
発展的な実験を行う際、実験に伴う計画や実験結果の予想、結果に基づく分析、考察ができた。話し合い活動を取り入れ、結果や考察を伝える工夫ができるよう指導する。	知識に関する部分においては概ね定着している。一方で興味・関心に差があるため、実験、観察に主体的に取り組める生徒と受動的になる生徒では思考・技能において差が出てしまった。スモールステップで指導する。	話し合い活動や実験の計画、実施がスムーズにできるようになった。実験結果やグラフを比較することができる生徒も増えた。一方で意見やまとめた内容の発表に課題がある。グラフ等を使った理論的解釈を伝える能力を育む指導を行う。

音楽科 評価・評定について

1 評価基準

※ 観点別学習状況の「B」に相当するのが、評価規準です。

※ 主に、歌唱・器楽・創作の分野は①②③を中心に、鑑賞の分野では①④を中心に評価します。(例)

評価基準			
① 音楽への関心・意欲・態度	② 音楽表現の創意工夫	③ 音楽表現の技能	④ 鑑賞の能力
楽曲の内容や曲想に関心を持ち、音楽表現を工夫しながら表現する学習に主体的に取り組もうとしている。	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、楽曲に合った表現の方法を工夫し、どのように表現するかについて思いや意図をもって	楽曲の内容や曲想を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けて表現している。	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、曲想との関わりを理解してよさや美しさを味わって聴いている。

2 評価方法

① 下記の資料を総合して評価します。

- ・定期考査
- ・記述内容、発言内容
- ・演奏（歌唱、器楽）
- ・作品（創作）
- ・授業態度（提出物）
- など

② 観点別評価と各評価の関係は以下のとおりです。《 ◎…とても重視する ○…（分野や単元により）重視する 》

	音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力
定期考査		◎	○	○
実技テスト (歌唱・器楽)		○	◎	
作品（創作）		○	○	
授業態度・提出物	○			
記述内容、発言内容	○	○		○
自己評価	○			
各観点の比率	25%	25%	25%	25%

昨年度の成果と課題

1年	2年	3年
表現活動（歌唱・器楽・創作）に高い関心をもっており、授業に意欲的に取り組む姿勢が見られた。表現活動の中での発見を重視するため、活動時間を多く設定した。やわらかく伸びのある声を育てていくための発声練習や歌唱指導などを取り入れ、歌唱表現につなげていく。	表現活動（歌唱・器楽・創作）に高い関心をもっており、授業に意欲的に取り組む姿勢が見られた。男女比がアンバランスではあるが、歌唱活動における全体の響きをつくることができた。やわらかく伸びのある声を育てていくための発声練習や歌唱指導などを取り入れ、歌唱表現につなげていくとともに、知識や技能を生かし、表現を工夫させる活動を多く取り入れていく。	表現活動（歌唱・器楽）に高い関心をもっており、授業に意欲的に取り組む姿勢が見られた。やわらかく伸びのある声を育てていくための発声練習や歌唱指導などを取り入れ、歌唱表現につなげていくとともに、知識や技能を生かし、表現を工夫させる活動を多く取り入れていく。鑑賞の分野では、音楽や発表を聴いて意見をもち、感じたことを自分の言葉で表現することができた。根拠をもって批評する活動を、より多く取り入れていく。

美術科評価・評定について

1. 評価規準

・観点別学習状況の「B」に相当するのが、評価規準です。(例)

美術への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
<ul style="list-style-type: none"> ・課題に対してすすんで関心を持ち、自作品の向上に向けて意欲的に取り組むことができる。 ・計画的に制作に臨み、毎時の予定や目標を達成することができる。 ・学習プリントや毎時の授業レポートなどを積極的に記入し、期限内に提出することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・見たことや感じたことなどをもとに表現の主題を設定し、発想を展開することができる。 ・主題やイメージに基づいて、形や色、構成などを工夫し、作品の構想を練ることができる。 ・構想したものを、アイデアスケッチや作品などに、具体的に表すことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な技法を習得し、作品に応用して表現することができる。 ・見たものやイメージしたものを色や形にして、美しく描写または造形することができる。 ・道具の用途や素材の特質を理解し、表現意図に応じて適切に使うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自他の作品や表現を見て、その良さや工夫に気付き、評価することができる。 ・古今東西の美術作品や芸術家について知り、美術の意義や生活との関わりについて理解する。 ・道具や用具、材料や素材について知識を広げ、その活用方法や効果について理解する。

2. 評価方法

①下記の資料を総合して評価します

- ・作品
- ・アイデアスケッチや習作
- ・定期テスト
- ・ワークシート (学習プリント)
- ・授業レポート (毎授業の取組)
- ・鑑賞レポート

②観点別評価と各評価との関係

- ・観点別評価で、各資料がどの位のウェイトを占めるかを示しています。

◎・・・とても重視する ○・・・重視する

観点 学習活動	美術への関心・ 意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
作品	◎	◎	◎	○
アイデアスケッチ・習作	◎	◎	◎	○
定期テスト	○	○	○	◎
ワークシート	◎	○	○	○
授業レポート	◎			○
鑑賞レポート	○			◎

昨年度の成果と課題

1年	2年	3年
<p>中学校で新たに学ぶ専門的な知識や技能に、好奇心を示しながら意欲的に制作に取り組み、美術の基礎力を伸ばすことができた。進んで構想を展開したり、時間を意識して作業したりする姿勢が不十分なので、発想力や計画性が身に付けられるように、指導や助言の方法を工夫していく。</p>	<p>説明や指示をよく聞いており、自分なりの発想を生かして作品に取り組める生徒が増えてきた。始めは、自分の意思を伝えるのが苦手な傾向にあったが、積極的に質問するなどが向上してきたので、言語活動も充実させながら、さらに表現力を伸ばしていく。</p>	<p>話をよく理解しており、コミュニケーションも円滑にとれるため、個々に応じて発想や表現の幅を広げることができた。助言など、素直に聞き入れて応用する能力はあるので、もっと自発的に想像力を働かせて、表現活動を楽しめるようにしたい。</p>

保健体育科評価・評定について

1, 評価規準の例【単元名：陸上競技】

関心・意欲・態度	思考・判断	運動の技能	知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> ・全力を出して競争したり、記録を向上させたりする陸上競技の楽しさや喜びを味わおうとする。 ・互いに協力し、励まし合いながら進んで練習や競技を行おうとする。 ・勝敗や記録の結果を受け入れようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・用具の準備片付けを適切に行える。 ・課題解決のために効果的な練習の仕方を選んだり、記録の向上に合わせて効果的な練習の仕方や競技の仕方を選んだり見付けたりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・種目の特性に応じた技能で練習や競技をすることができる。 ・自分の能力に適した技能について、動きのポイントを身に付け、その技能を高め競技したり記録を高めたりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・種目の特性や学習の進め方及び自分の能力に適した課題の選び方を知っている。また、競技の進め方、種目のルールや技能の名称、審判の方法を知っている。

2, 評価方法

① 観点別評価方法

観 点	評 価 項 目
関心・意欲・態度	・授業観察 ・提出物 ・学習カード
思考・判断	・授業観察 ・定期テスト ・学習カード
技能	・授業観察 ・実技テスト
知識・理解	・授業観察 ・定期テスト ・ワークシート

② 観点別評価から評定への総括方法

・ 観点別評価結果を下表の割合で評価する。

関心・意欲・態度	思考・判断	技能	知識・理解
25%	25%	25%	25%

・ 3段階の観点別学習状況の評価から5段階の評定に総括します

観点別評価		学習の実現状況	各評価の範囲		評 定	
A	十分満足できる	80%以上	90%以上	5	特に程度の高いもの	
B	おおむね満足できる	50%以上80%未満	80%以上90%未満	4	十分満足できる	
C	努力を要する	50%未満	50%以上80%未満	3	おおむね満足できる	
			20%以上50%未満	2	努力を要する	
			20%未満	1	一層努力を要する	

昨年度の成果と課題

1年	2年	3年
運動に意欲的に取り組み、反復練習に取り組む中で、運動技能の向上が見られた。学び合いによる学習や、様々な種類の運動を反復して行い、バランスよく体力を高められるようにしていく。	運動に意欲的に取り組み、学び合いの中で運動技能の向上が見られた。板書や見本の見せ方を工夫したり、補助運動や体ほぐし運動の種類を増やすなどの改善を図り、バランスよく体力を高められるようにしていく。	学び合いでのコミュニケーションが少し足りなかったが、授業に意欲的に取り組むことができていた。体力に偏りがあるため、補助運動や体ほぐし運動を改善し、持久力や柔軟性を高めていけるよう授業改善を行っていく。

平成30年度 評価・評定の方法【技術・家庭科】

(1)教科の目標

生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技術の習得を通して、生活と技術とのかかわりについて理解を深め、進んで生活を工夫し創造する能力と実践的な態度を育てる。

(2)技術・家庭科における評価の観点及びその趣旨とその解説

	生活や技術への 関心・意欲・態度	生活を 工夫し創造する能力	生活の技能	生活や技術についての 知識・理解
趣旨	生活や技術について関心を持ち、生活を充実向上するために進んで実施しようとする。	生活について見直し、課題を見付け、その解決を目指して自分なりに工夫し創造している。	生活に必要な基礎的・基本的な技術を身に付けている。	生活や技術に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、生活と技術とのかかわりについて理解している。
技術分野の 観点 (例)	材料と加工、エネルギー変換、生物育成及び情報に関する技術について関心を持ち、技術の在り方や活用の仕方等に関する課題の解決のために、主体的に技術を評価し活用しようとする。	材料と加工、エネルギー変換、生物育成及び情報に関する技術の在り方や活用の仕方等について課題を見付けるとともに、その課題のために工夫し創造して、技術を評価し活用している。	材料と加工、エネルギー変換、生物育成及び情報に関する技術を適切に活用するために必要な基礎的・基本的な技術を身に付けている。	材料や加工、エネルギー変換、生物育成及び情報に関する技術についての知識を身に付け、技術と社会や環境との関わりについて理解している。
家庭分野の 観点 (例)	衣食住や家族の生活などについて関心を持ち、これからの生活を展望して家庭生活をよりよくするために進んで実践しようとする。	衣食住や家族の生活などについて見直し、課題を見付け、その解決を目指して家庭生活をよりよくするために工夫し創造している。	生活の自立に必要な衣食住や家族の生活などに関する基礎的・基本的な技術を身に付けている。	家庭の基本的な機能について理解し、生活の自立に必要な衣食住や家族の生活などに関する基礎的・基本的な知識を身に付けている。
解説	生活の課題に積極的に取り組む姿勢を重視し、育てるものである。生活や技術について関心を持ち、生活をよりよくしようとするための実践的な態度や意欲を評価する。また、習得した知識や技術を実際に生活に活用する態度を育て、評価する。	自分の生活を見直し、課題を見付けるとともにその解決に向けて様々な工夫をしたり、自分なりの方法を考えてみたりするなど工夫し、創造する能力を評価するものである。ただし、あくまでも中学生としてのレベルで評価することに配慮する。	生活の自立を図ることや生活を工夫・創造するためには、その基盤となるための生活に必要な基本的な技能が必要である。ここでは単にものをつくる技術だけでなく、安全に留意しながら活用、応用できる技術も評価する。	生活の自立を図ることや生活を工夫・創造するためには、その基盤となるための生活に必要な基本的な知識が必要である。ここでは単なる知識だけでなく、生活との関わりについて理解していることも評価する。
評価資料	○ワークシート記入内容の変容 …70% ※1 ○授業観察 …30%	○設計(計画)と作品の比較 …70% ○定期考査 …20% ○自己・相互評価 …10%	○作品 …70% ○授業観察 …20% ○自己・相互評価 …10%	○定期考査 …90% ○自己・相互評価 …10%

昨年度の成果と課題

1年	2年	3年
<p>技術 製作品の完成までの流れを見据え、毎授業では時間を意識して作業に取り組むことができるようになってきた。一方で、工具の名称や図面の描き方など、基本的な知識の定着には課題があり、反復学習を取り入れながら更なる定着を図る。</p> <p>家庭科 製作では意欲的に取り組み、個性ある作品を製作している。一方で、作業に集中すると、時間を意識することができなくなる面も見られるため、意識の向上を図っていく。</p>	<p>技術 自分自身だけの作業だけでなく、仲間と協力して全員の完成を目指して意欲的に取り組むようになった。一方で、全体活動の説明だけでは理解に至らず作業に取り組むことが困難な生徒もおり、引き続き能力に応じた指導に努める。</p> <p>家庭科 班で協力して話し合い活動を行い、意欲的に取り組んでいた。一方で、知識で終わってしまう面も見られるため、実生活と結び付けることができるよう、話し合いで考える時間を多く取り入れていく。</p>	<p>技術 限られた授業の中で製作品の完成を目指し、生徒たちは作業効率を一段と意識して取り組むようになった。一方、授業で培ってきた知識が生活とどのように結びつくのか、教師から具体的な提示を心掛け、更なる定着に努める。</p> <p>家庭科 製作では時間を意識して、グループで相談しながら取り組んでいた。学習したことが自分の生活と結び付けられるよう、身近な例を挙げ生徒が考えることができるようにしていく。</p>